

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970101604
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家 グループホーム 甲府後屋
所在地	〒 400-0045 山梨県甲府市後屋町97-1 電話番号 055-242-0551

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	平成19年12月14日

【情報提供票より】平成19年8月12日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13人	常勤	13人 非常勤 0人 常勤換算 12.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(200,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要 平成19年8月12日 現在

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立甲府病院、 しみず歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年8月29日

・ホームの利用者1人ひとりに生き活きとした毎日を過ごしていただけるよう自立支援に徹したサービスを目指し前向きに取り組んでいます。

・全国の法人組織とつながっており、月1回のテレビ会議や地域活動報告等の情報を生かし介護サービスの質の向上を目指した活動に取り組んでいます。

・自治会や学校等、様々な機会を通じて地域の人々とのふれ合いを大切にした意欲的な取り組みを実践しています。

・「重度化した場合における医療体制指針」により早い段階から本人・家族・かかりつけ医・スタッフ等と方針を共有しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度は設立2年目であり自治会等地域の認知度は低い状況でありました。その後の取り組みとしてグループホーム長等が地域に出向く機会を多くもつ努力をしたことにより、地域の行事への参加や近隣住民から気軽に声をかけていただくことが増えてきています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義とねらいについてホームの長として説明され、スタッフとの話し合いを持ち自己評価に取り組んでいます。外部評価の結果はスタッフに報告し課題については具体的な改善に向け取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は7名の委員の構成により、年間計画・日程等も組み込まれ進めています。討議内容では、近隣との苦情問題があり委員の中から苦情処理担当者が決められその委員を中心に進められます。災害対策では実際の災害を想定した避難訓練が不十分であることから11月には消防署の協力のもと地域の方々との協力を得て行うこととなりました。また、防火用点検表により毎日点検されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の率直な意見や苦情を表せる機会として、法人本部により家族へのアンケートを実施しその結果を法人本部がホームの管理者に報告するシステムがとられています。利用者の日々の暮らしぶりや健康状態等について面談や電話連絡により随時、家族に報告しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが開設され3年目を迎え、ホームの前向きな関わりと地域の方々の理解と協力により自治会・隣接している学校・地元の住民との交流の基盤が築かれています。老人会や遊びにくる子ども達、ホームから学校へ雑巾の寄付、ホームのベンチでの対話など地域の一員としてのつながりを持ち暮らしています。

2. 調査報告書

事業所名: 愛の家 グループホーム 甲府後屋

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念の3本柱を基本に据え、甲府後屋グループホームが利用者・スタッフ等、誰にも解り易い言葉で表現された独自の理念を作り上げている。あくまで利用者が主役・介護スタッフは黒子となり、自立支援に徹したサポートを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ここが自分の居場所」となるよう、甲府後屋グループホームの独自の理念を柱に介護スタッフは心をこめたサービスに日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会・盆踊り・運動会等自治会行事等の地域活動に積極的に参加している。小学生がホームに遊びにきたり福祉授業を行うなど学校との交流を深めている。近隣住民とも散歩等で挨拶を交わし地域とのふれ合いを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて管理者として説明し話し合いも行っており、今後取り組んでいこうとする項目については具体的な計画案をもっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動報告・委員からの地域の情報を受けるなど双方向的な会議となるよう努め年間計画により進められている。地域とのトラブルに対して苦情処理担当委員の設置や防災対策の具体策等がでている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	甲府市・包括支援センターとは、適宜相談しており連携は取れている。	○	グループホームの実情等を積極的に伝え、行き来する機会をより多く持ち、連携を深めて欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態について面会時や電話により家族とのコミュニケーションは密にとられている。	○	書面による家族等への近況報告を9月から計画されることで家族も楽しみだと思えます。今後の取り組みに期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として家族へのアンケートを実施しており、その結果はホームの管理者に報告され評価を受けるシステムとなっている。玄関入口に意見箱を設置してある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はスタッフのニーズを正確に把握し、離職を最小限に抑えるための働きやすい職場づくりに努めている。やむを得ず交代する場合は約半月間は先輩スタッフが指導するシステムとなっており、利用者等へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では全体会議等を通して常に研修の場を設け研鑽に努めている。外部研修(県外研修)にも積極的に参加するよう促している。	○	同じ法人組織である県内4か所のグループホーム長及びスタッフを対象にしたケア向上委員会の実施に期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の同業者同士との交流は情報交換程度である。全国に展開するグループホーム長同士の交流では、毎月1回のテレビ会議や電話等による情報によりサービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ずホームの見学を行い入居後はすぐにドライブや外食等のイベントを開催し、場の雰囲気段階的に馴染めるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備・後片付け・スタッフは制服を着用しないなど自然な関係づくりにより、お互いに支えあう暮らしで日々過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で言葉や表情等の把握に努め、必要に応じて個別面接により本人の思いに添えるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフが日々の利用者の様子を記入する情報ノートの活用や必要な関係者との話し合いにより介護計画を作成している。スタッフが気づきやすく記入しやすいアセスメントシートを検討している。	○	本人本位の検討を行うためにも、カンファレンスに家族が参加される取り組みは大切なことです。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた介護計画の見直しは出来ているが現状に即した介護計画の反映が後手となっている。	○	介護目標に達成するために、介護計画の見直しを速やかに行うことは必要なことであり、そのための人員配置を含めたシステムの見直しを検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医による診療(往診)や訪問看護者との連携も密にとられ、適切な医療・看護が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における医療体制指針」が作成されており入居時に説明を行っている。入居後も状態の変化に応じて話し合いを繰り返す積み重ねを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保について秘密の保持・居室に入室するとき等、常に具体的に対処している。個人情報保護法に基づき管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本になる生活の流れはあるが、それにとらわれずに利用者のリズムに合わせて気持ちを尊重した支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とスタッフが毎食、準備から片付けまで一緒に行い、同じ食卓で同じものを楽しく食べている。外食の機会を持ち食事を楽しむ雰囲気味わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる。本人の意思を尊重しながらバイタルチェックにより体調に合わせた一人ひとりの支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で一人ひとり楽しみや役割を持って過ごしている。またスタッフは感謝の言葉を忘れずに達成感を感じてもらえるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけている。(買い物など目的ある散歩をしている) 毎月行事等を計画し外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずに日中自由に外に出られる環境づくりを実践している。 見守りやさりげない声かけ、チャイムは事務室で鳴るようになってきている等利用者の立場になり安全に過ごせる工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火用自主点検票が作成され、毎日の日常の点検と月末時の定期点検が実施されている。 実際を想定した災害の避難訓練は不十分である。	○	消防署の協力のもと避難訓練を11月に計画され、地域の支援体制を得て訓練を行うとのことなので、その実施と成果に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を記録し、状態に応じた支援を行っている。自由に水分摂取ができるよう湯茶等がセットされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔が保たれている。 カレンダーや写真など季節感ある雰囲気づくりに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はなく、利用者の馴染みの使い慣れたタンスや化粧台など思い出深いものに囲まれて過ごされている。		